巻頭言

新会長あいさつ

兵庫県立尼崎病院院長　牧野　尚彦

このたび白方先生の後を受けて、近畿病院図書室協議会の会長をお引き受けすることになりました。あまりこの方面に造詣の深くない私がこのような役目をお引き受けするのは僭越とは存じますが、勉強して精一杯お世話をさせていただきます。

近年では医療の高度化と専門分化のため、日々吐き出される文献の数量は膨大なものがあります。もちろんそのすべてが医療の進歩に重要だというわけではなく、玉石混淆ともいえる一面があることも否めませんが、さりとてちょっと目を離していると、すぐに時勢から取り残されてしまうのも事実です。このとき、情報の洪水に溺れないために私たちに必要なのは、優れたものを選別する鑑識眼と検索能力と、要約能力です。

このような状況のもとで、病院図書室や病歴室の知的再生産に果たす役割は、ますます重要になってきます。このような非収益的部門に力を注ぐ病院こそが、これからの急速な医学の進歩や医療体制の変革を乗り切り、隆盛を保っていけるでしょう。それは、来たるべき病院機能評価の大きなかなめとなるはずです。

当協議会がいち早く結成され、有意義な実績を築いてきたことは、じつに先見の明ある企画であったと高く評価されましょう。どちらかといえば‘縁の下の力持ち’的な部門において、会員の皆さんが黙々と研鑽を積み、互いに情報を交換して医療活動を支えてきた功績には頭が下がる思いです。時代の要請がますます高まっている今日、この灯は大切に守り育てられなければなりません。

しかし、こうした組織が拡大発展するときの一つの問題は、会務がますます煩雑になる反面、新規加入会員からはなかなか活動家が出てくれないということです。評判を聞いて参加した新会員の多くは、情報はほしがるけれども、会の世話役になることは二の足を踏みがちです。それが創立時からの世話役に過大な負担をかけます。

この協議会はそのようなジレンマに陥ることなく、互いに親密に情報を交換し、会務を平等に分担して協調する気風をもっているように見受けます。私は、会長引き継ぎのために一度総会に出席させていただいただけですが、会員の皆さんの熱意に感激しました。この雰囲気を大切に、この会がますます発展することを願うとともに、少しでもお手伝いすることができればと念じております。